

放送大学通信

on air

オン・エア

no.
85

発行日 平成19年3月10日

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地 043-276-5111 (代)

CONTENTS

学習のすすめ方について－Ⅱ	1
学生による授業評価の結果から	4
学園ニュース	7
平成19年度開設・改訂科目の紹介	8
学習センターだより	12
研究室だより	13
退任あいさつ	14
教務のお知らせ	17

学習のすすめ方について－Ⅱ



学問に王道なし、されど！

放送大学長 丹保 憲仁

「学問に王道なし」ではせつかく「on air」を読んでもくれたことの答えにならない。「学習」という少し実務型の行為に限って言えば、新渡戸稲造先生が書き残した「Haste not, Rest not」（急ぐな、されど休むな）という言葉が、小生にとっては身近な言葉である。北海道大学の学花「エンレイソウ」の名を冠した北大の職員集会所（食堂）二階の会議室に、小生が総長時代に寄贈をいただいた先生の額がある。「慌てる乞食は、貰いが少ない」というといささか下卑ているが、勉強もまた人生である。

ではなぜに、学問となると王道が無いのであろうか？「運、鈍、根」という三文字言葉を皆さんは知っておいでだろう。まさに人生そのものである。学問＝人生では無いが、学び問いつづけるという意味では、人の大切な日常である。此处に、「運」という一文字が入ってくる。「努力をすれば、報われる」ほど、世の中は簡単でもなければ、甘くもない。学問をする

際の最大の困難は「力が無いことでもない」「時間が無いことでもない」「金が無いことでもない」。自分が「目標に向かって（設定できればの話であるが）」あるいは、「正しい方向に（最後になってわかることもあるが、一般には判らず終いである）」進んでいるかどうか、努力している本人には判らないことである。したがって、「王道」など、本当に学ぼうとする者には無いという、つらいことである。学校という月並みな機関へ行って、科目を学び、試験を受けて他人に評価してもらう理由もその辺にありそうである。大体「進む」ということからして、方向が決まっているから進んだかどうかが論じられるのであって、努力をしてどんどん迷路に進みこむ人のほうが多い。様々な学問、宗教が之を論じている。

高校生や大学の低学年の学生が、時には中学生までも、「是を勉強したら何の役に立つかが判らない」と称して、日々の学びに入れない輩が多くなってきているらしい。歩き方が判らなければ、動

物の仔はあつという間に他の肉食獣の餌食である。学ぶことを選択が容易でない。初等中等教育が教科書型の訓練重視の勉強をさせる（義務教育）のは、その意味である。個体発生は、系統発生を繰り返すと中学（旧制）の頃習ったことがある。人類は文化・文明なるものを数千年以上にわたって情報として社会に蓄えてきた。固体の成長はたかだか数十年のものである。肉体は百年で減じる。自分が正しいと思うかどうか、選択基準であることは間違いないが、人類千年の試行錯誤の学習結果を学ばずに、自分のDNAにある痕跡と自分固有の短時間の経験のみでことを進めるのは危ういと思う。いっぽう、法律に書いてあることが全てという三百代言的な学習結果も困るし、はた迷惑である。

この大学の中核は教養学である。自分は何処にいるのか、何処からきたのか、何処へ行くのか、自己の時空間の位置を確かにすることが教養を学ぶ大きな目的かと思う。近代を作ったヨーロッパ、今生きているアジアの文明の起源

から始まる時間軸の理解を歴史に学び、地球から宇宙に広がる人間の空間認識と人間がそれらを理解するための科学、そして動物として、また、きわめて特異な地球上の卓越種としての人間の心と挙動など学ぶべきものは多岐にわたる。特に、はびこりすぎた人類の今を学び、未来を想像し、子孫に思いをはせる「人類が持続できる

かどうか」を中心に、長く広い時空間の上で今を学ぶことが大切であろう。現代の教養学とこの間までの教養学は少し違うように思う。その上で、何かを始めねばならない。「行わなければ学ばないと同じである」と、福沢諭吉はいつている。

学びの極は、学ぶことが楽しいという境地であろう。刻苦勉励し

て人生を送り、休まず学んだ人のみが到達出来る心境である。語学や数学が段々判る、始の初めである。世の役に立つのは、その次であろう。無心の世界に学ぶ、般若心経の世界に大学者は到達する。若者はまだ、「Haste not, Rest not」で。

苦学は楽し（生きるとは学ぶこと）

選科履修生 山本 信行



身体強健海
が好き船も好

き酒は大好き、英数は大嫌いで開かれた大学の扉を開けた。内側にあったものは、welcome drinkならぬ高いハードルばかり、最大のものは「テキストを読む時間がない」ことだった。無いものは創った。テキストを全文コピーして玄関におき出勤時、数枚ポケットに入れ電車内で読み、その日捨てるようにした。薄い科目は残り何枚だ、厚い科目は1/3まで読破と毎日進捗状況が判るように、学習課

程を楽しんだ。

スクーリングで「社会学」の岩永教授に会い、卒論はテーマ選定より先に指導教授を決めて五年間勉強した。認定試験二週間前から通信指導を中心に復習し、土・日に集中して受験した。半数は落ちたが、イチローより打率は良いと思い再挑戦した。学友とも良く飲みエンジョイし、良き教授に恵まれ想定外に早く卒業できた。深く知ると周りも見えてくる。周りが見えると6専攻に関連があることに気づき「航海（後悔）」と同

じと思い遙か彼方の新世界の楽園にようそろ。楽園の港に着いたとき十五年経っていた。天敵の英語に襲われ何度も難破しかけたが「継続は力なり」を信じ乗り切った。生活習慣を見直し改善したことにより、「学びの世界」に自然に溶け込めた。現在選科生として天敵の英語と笑顔で接している。「いつまでも有ると思うな親の金、有ると思え運と才能」。

人生の終着が先か大学英語取得が先か？ マッチレースの最中です。「ありがとう放送大学」

学び方を考える

専門委員会委員長・図書館長 杉本 大一郎



「学びて時
に之を習ふ

亦説ばしからずや。」これは「学習」の語源で、論語の中にある。「時に之を習ふ」というのは、繰返し練習すると出来るようになる、という意味なのだそうである。ただ、昔と今ではとはかなり違う。昔は学ぶことが少ししかなかったが、今は膨大である。19世紀には知識の量が2倍になるのに100年かかったというが、今は5年しかからない。そのまま延長しても、100年で100万倍になる。だから覚えられないわけではないし、何もかも練習するわけにはいかない。そして「生き字引」というのは死語になり、覚えるのはコンピュータの仕事になった。必要が起これば、

いつでも、そこから検索で引き出せる。

それでも、「勉強しても、なかなか覚えられない」とかいう話を聞くと、教科書に線を引いて記憶しようとする昔風の勉強の仕方が、いまでも常識的に行われている。

もう少し賢い方法はないものであろうか。「どういうことが起こっても対処できる能力を身に付ける」というのが本来の学習であるとするれば、言葉は悪いかもしれないが、「それを楽にできる方法」はないものであろうか。学習の仕方を先生に尋ねると、「努力すれば報われる」とか、「辞書をきちんと引くと身につく」とかいう話の出てくるのが常である。そうい

うことは言ってもらわなくても分かりきったことだし、何よりもそれでは能率が悪い。教員たるものは、そういうことではなく、もっと楽をして学べる方法を考える義務があるのではなかろうか。

誰にでも分かるように、言葉の問題を例にして考えよう。先ほど「きちんと辞書を引く」という話をした。それに対する素朴な疑問は、「私は日本語の辞書をそんなにきちんと引いたであろうか」である。普通の人なら、項目数としては英語の辞書と比べて何10分の1しか引かなかったであろう。それでも日本語の運用能力がついている。英語がそのようにならないのはなぜか。

もちろん、日本語は子供のとき

から覚えてきたからである。もう一つ根本的な違いは、日本語は実用に使っているということである。それに対して英語は実用に使っていない人が多い。実際、高等学校までで英語の一通りのことは学んでいるから、後は実用に使うだけだと思っただけだが、今は、そういうことはあまりしないようになっている。

私が学生であった50年前には、日本語の科学の教科書はあまりなかったで、大学1年では英語の教科書が採用されていた。当時は外貨が非常に高かったのだが、Asia Editionという安い本が出版されていたので英語の教科書の方が日本語のものより安く、貧乏学生はそれを読んでいたというわけである。今は大学院生に英語の論文与えると「コンピュータで翻訳するソフト買いました」と言う人まである。

それと対照的なことは、卑近な例では、自動車の運転である。運転の習い初めには、汗をかきながらハンドル操作をしたりするのが普通であろう。それでも免許を取ったあと、自由に運転できるようにならない人は、殆どない。どこが英語と違うのであろうか。

自動車の場合には「どこかへ行きたい」、「行く用事がある」ということで実用に使っている。そして1万kmも走れば、誰でもスイスイ走れようになる。平均時速20kmで1万km走るには500時間かかる。英語も500時間、読み・書き・演説をすれば、だれでも使えるようになるから、似たようなものだと言える。だが多くの人は、せっかく英語を習っても、そのように使っていないのである。主文の後に関係代名詞で始まる副文がついている(This is a textbook, which is published by the University of the Air.)とき、「副文が述べているところの、何々が・・・」と先に言ってから主文を訳す人が多い。それでは、話についていけない筈がない。副文を言っているときには主文は言い終わって、その音はもう消えている。訳者が主文のことを考えているときには、話はもう次の文に移っている。だから、頭からその場で順次、理解出来るように話し、文の途中までもそ

の場で理解しなければならない。だから、翻訳して理解するのは間違いなのである(自動車の運転をしているとき、道路交通法の条文をいちいち考えているわけではない)。

「私は自動車が上手だ」と思っている人は早く実用の域に達するが、怖いと思いながら運転している人は、なかなか旨くならないという事実がある。そのあたりは、インド人と話をしてみれば分かる。彼らの多くは、間違った英語を使っても平気な顔をしている。No Problem BIKEという、オートバイの広告看板があった。インドでは、no problemというのは形容詞なのである。そういうことをほとんど気にしないから、インド人は英語で十分にコミュニケーションできる。もっとも、インドはかつてイギリスの植民地だったので、イギリス人の方もインド人の考え方が分かっているから、通じやすいという面もある。それに対して日本ではRとLが区別できないから伝わらない、とか言っているが、それはたぶん真っ赤なうそで、伝えたい内容があれば必ず通じる。高速道路のRampのところで、灯りのlampの話をする人はいない。

以上では、英語のことばかり述べたが、そのようなことは、他のリテラシー科目や、人文・社会・自然の科目についても広く当てはまる。そして、自分の興味の範囲を、まずは出来る限り広げておくと、知識や知恵は芋づる的に(数年前に流行った言葉でいうと、リゾーム的に)広がっていく。そして、その人に残るのは、個々の知識ではなくて、広がった領域で、何にでも対処できる能力なのである。ほんとうは、そのあたりを詳しく述べたいのだが、紙数が限られているので、ここではそれを考えるためのヒントだけを列挙しておく。どうするかは、それぞれ、自分で考えて欲しい。この「自分で考える」というプロセスこそが、(覚えるということとは違って)学習そのもののなのである。

・日本語と英語の概念体系は違う。レストランで食べ物をchooseするが、(病気で食物制限を課されている人を除くと)

selectはしない。辞書を引くと、どちらも「選ぶ」と書いてあるが、それらは異なる概念なのである。

- ・概念空間を広げよう。数理言語を理解しないと、文化の半分について音痴になる。
- ・自然言語でも概念空間を広げよう。異なる言語、すなわち異なる概念体系を学ぶと、「言語」や「論理操作」というものが分かるようになる。こうすると、理科まで分かる。コンピュータのソフトは、解説書を一瞥しただけで使えるようになる。
- ・同時に、造語能力(概念を拡張する能力)が身につく。漢字のような造語能力は、表音文字を使うヨーロッパ言語にもある。これが身につくと、単語は覚える必要がない(日本語の辞書を引く必要がなかったのと同じ理由)。自己増殖的に増えていく。
- ・数理的な例をあげる。高等学校で、三角関数のいろいろな公式を覚えるのに苦労したであろう。しかしこれは、数の空間を実数の空間から複素数(高等学校で、2次方程式の根に関係して習った)の空間に広げると、何も覚えなくても、訳なく数分の計算で導ける(「使える数理リテラシー('03)」参照)。
- ・大学には、特定の事柄ばかりを詳しく語る講義が比較的多い。講義の内容についてこそ、自分の考えで、評価してほしい。例えば、ドイツ観念論までの哲学は諸学の学であった。今でもそうであろうか。哲学を学んで何かの足しになった「具体的な例」があるか、考えて見て欲しい。
- ・応用問題。化学の元素記号で、金はAu、銀はAgと表す。なぜだろう。ラテン語・ギリシャ語まで戻らなくても、スペイン語で考えたので分かる。アルゼンチン(アルヘンティーナ)にラプラタ川が流れている。どちらも銀という意味。なおgの発音は難しい。特にオランダ語。コンサート・ヘボー管弦楽団(concert gebouworkest-ヘボーはドイツ語のゲボイデに対応、英語ならビルディング、意味はホール)。

学生による授業評価の結果から －その概要と自由記述の内容－

発達と教育 教授 岩永 雅也

本格始動した学生 による授業評価

放送大学では、学生の授業に関する理解の状況や満足感等を把握することによって、教育内容や教

授方法および学習支援システム等の改善に資することを目的とし、昨年度から自己点検・評価の一環として学生による授業評価を導入している。昨年度は、初回ということもあって、試行としての意味も持たせたが、第2回目の今年度

は、昨年度の調査内容に回答のしやすさなどを勘案した上で若干の変更を加え、さらに大学院科目にも対象を拡大して、本格的な授業評価調査を実施した。今回の報告では、その量的分析結果と自由記述の内容とを簡単に紹介する。

調査の概要

評価の対象としたのは、平成18年度第1学期に本学で開講していた学部286科目、大学院67科目、計353科目の放送授業のうち、原則として開講2年目でかつ昨年度対象とならなかった学部34科目、大学院21科目、計55科目である。開講2年目の科目を原則としたのは、3年目以降の科目ではすでに次期に向けての改訂作業が進められていて授業改善という目的に十分役立てることができず、また開講したばかりの1年目の科目では結果が出てから改訂までに間が空きすぎるなど、本学の科目作成の特殊事情を勘案してのことであるが、このような選定システムにすることで、開設後4年間継続して放送することとされている全科目が開講期間中に必ず1回、評価調査の対象とされることになる。

調査は大きく分けて3つの部分からなっている。第1は、当該科目の放送教材、印刷教材、単位認定試験等について4段階で評価する26項目の評定尺度質問である（内容は、放送授業の難易度、講義の試聴しやすさ、印刷教材の内容、単位認定試験の妥当性、全体的満足感など）。第2は、当該科目の評価点、改善点および本学の教育システム全体への意見を尋ねた自由記述部分であり、第3は属性に関するフェースシートである。

調査票の配票は、それら55科目の受講登録者を母集団とし、学部科目では各250名ずつ（登録者がそれ未満の科目は全数）、大学院科目では200名ずつ（同）をそれぞれ無作為抽出して得られた学部8,008名、大学院3,421名、計11,429名に、回答すべき科目を予め指定した上で、郵送により行った。回収も郵送によった。調査期

間は単位認定試験終了直後から8月下旬までの約1ヶ月間であった。有効回答数は学部3,078票、大学院1,589票、計4,667票であった。無記名調査ながら有効回答率は学部38.4%、大学院46.4%、全体で40.8%と低めであった。学部科目のみを対象とした昨年度の評価調査の41.5%と比較すると、わずかながら低下していることがわかる。属性別に見ると、特に男性の回答率の低下が目立った。回収率の低下の要因はさまざまに考えられるが、昨年度に続いて今年度もまた調査票が配票された対象者の回答率の低さも大きな要因の一つになっていると思われる。評価結果が授業科目改善に反映していることを目に見える形で示していくことが何よりも必要なのであろう。

評定尺度質問の 回答結果

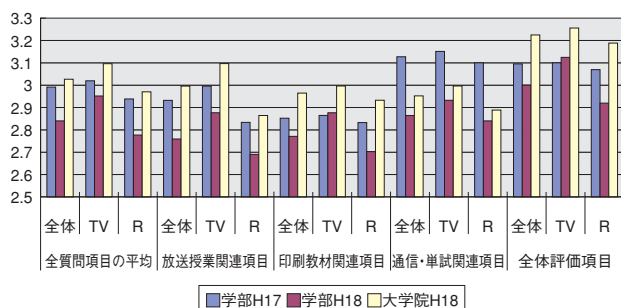
（評点は4段階評定の平均値）

評価調査票の表面にあたる四段階評定の結果を見よう。評定尺度質問は「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4段階のいずれかで答えるようになっているが、今回はそのそれぞれに4点～1点を便宜的に振り当て、あくまでも目安として平均値を算出してみた。負のイメージの評価は数値を逆転してあるので、26項目の全てで、4がよい評価を、1.0が悪い評価を、

それぞれ示すと考えてよい。（評定尺度の各カテゴリーに振られた「数字」を「数値」として演算することは、厳密に言えば統計処理として適切ではない。例えば、3が2よりもあてはまる程度が大きいことは言えても、4と3の間と3と2の間が等距離（つまり1）だという保証はどこにもない、というようなことがあるからである。ここでは、平均値を傾向を推察するための目安として見て欲しい。）その評点平均値を項目グループ別に

見て、学部の昨年度と今年度、大学院の今年度の結果をそれぞれ比較したのが図1である（ただし、学部の昨年度の対象科目は今年度のものとは全く別で、正確に言えば比較はできないため、これも参考として見て欲しい）。

図1 項目グループ別評点平均(学部17・18年度、大学院18年度の比較)



これを見ると、まず、今年度の学部科目の評価が、昨年度の学部科目、今年度の大学院科目のどちらと比較しても一律に低いことが目につく。先に述べたように、年度を超えた単純比較はできないものの、非常に気になる結果である。一方、大学院科目は、通信指導・単位認定試験関連項目を除く項目で概ね学部科目よりも評価が高くなっている。通信指導・単位認定試験関連項目では、後出の自由記述を読む限り、内容の難しさもさることながら、わずか50分の試験で成績判定されてしまうことへの不満が大きいことが読み取れる。今後、大学院の試験方法も独自に検討していかなければならないのかもしれない。ただし、大学院科目への全体評価が非常に高いことは注目すべきであろう。科目全体

として、大学院における教育が一定の水準に達しているものと判断されていることの証左と考えられる。もう一つ、大学院科目ではそれほど顕著ではないものの、全体を通じてラジオ科目の評価の低いことが気になる。メディアの多様化が当面する重要課題の一つとされている放送大学では、こうしたラジオ科目への評価の低さをどのように考え、解決していくかが、今後いっそう問われるようになるに違いない。

その他、図示は略すが、学部科目への全体的満足感に関する四段階評定の結果からは、専攻別に見て発達と教育専攻の評価(3.14)が最も高かったこと、性別で見ると女性の評価(2.95)が男性(2.90)に比してやや高かったこと、年齢別に見て70歳以上の満足感(3.20)

が最も高く、19歳以下の満足感(2.59)が最も低かったこと等が目についた。また、大学院科目への全体的満足感では、プログラム(群)別に見て政策経営プログラムの評価(3.27)が最も高かったこと、性別で見ると男性の評価(3.22)が女性の評価(3.12)よりもやや高かったこと、そして年齢別に見て60代の満足感(3.28)が最も高く、20代(3.05)が最も低かったことなどが注目された。全体として、学部科目の傾向は昨年度同様であったが、大学院科目では学部とは異なる傾向が見られたことには興味を引かれる。科目の特性の違いもさることながら、受講者の特性の差異も影響しているのかもしれない。今後、年度ごとの結果を注視していきたい。

自由記述から

一方、評価調査票裏面の自由記述欄には、「よかった点」に学部科目で72.8%、大学院科目で76.3%の回答者が具体的な回答を寄せてくれた。同様に、「気になった点」には学部科目で58.2%、大学院科目で57.4%の回答者が、また、「教育システム全体への意見」には学部科目で60.8%、大学院科目で63.4%の回答者が、それぞれ熱心な回答を寄せている。その内容は膨大な量に上るため、ここでつぶさに紹介することは不可能であるが、よかった点と気になった点について、頻出の感想をいくつか紹介しておこう(対象の科目名、記入者の属性等は省略)。読者諸賢は同感されるだろうか。

<よかった点>

- 副教材のCDが役立った。印刷教材を見ながらCDを聞き音読する方法を続けた。
- 担当講師の熱心な話しぶりに、つつい引き込まれる思いで聴講させて頂いた。
- この授業で何度も泣いてしまった。この教科書には人としての大切なことが全てつまっていると思った。また、仕事に直接役立つ内容であった。
- 著名なゲスト講師など、幅広い方の講義内容となっていて大変

よかった。印刷教材を読むだけでは、そうは思えなかったと思う。

- 様々な事柄・物事を見聞する時の見方・考え方が変わった(視野が広がった)。
- 「印刷教材の棒読み」がすばらしかった。これらは否定的に捉えられがちだが、法学の理解には法令の条文の暗記が欠かせない。繰返し聞くことで、正確な理解につながった。
- 映像が浮かんでくる様な話し方をして下さっていてすごく良かった。
- 通信指導のコメントで挫折しかけた学習意欲を持ち直した。コメントには「○章の○ページを見る」と書いてあり、教科書を読みかえす工夫がされていると思った。
- 印刷教材が分量たっぷりで証明等も充実していてよかった。座右に置いておきたい本だ。

<気になった点>

- ラジオ科目では印刷教材と放送授業の内容が同じで、放送を聴かなくなってしまう。
- 授業の進み方が早すぎ、詳しい説明がなく、「印刷教材を読んで下さい」が多かった。
- 滑舌が悪い人は聞き取りづらい。単調な話し方が子守り歌に聞こえてしまう。
- TVでもっと写真や映像など視覚的に効果のあるものを見せて

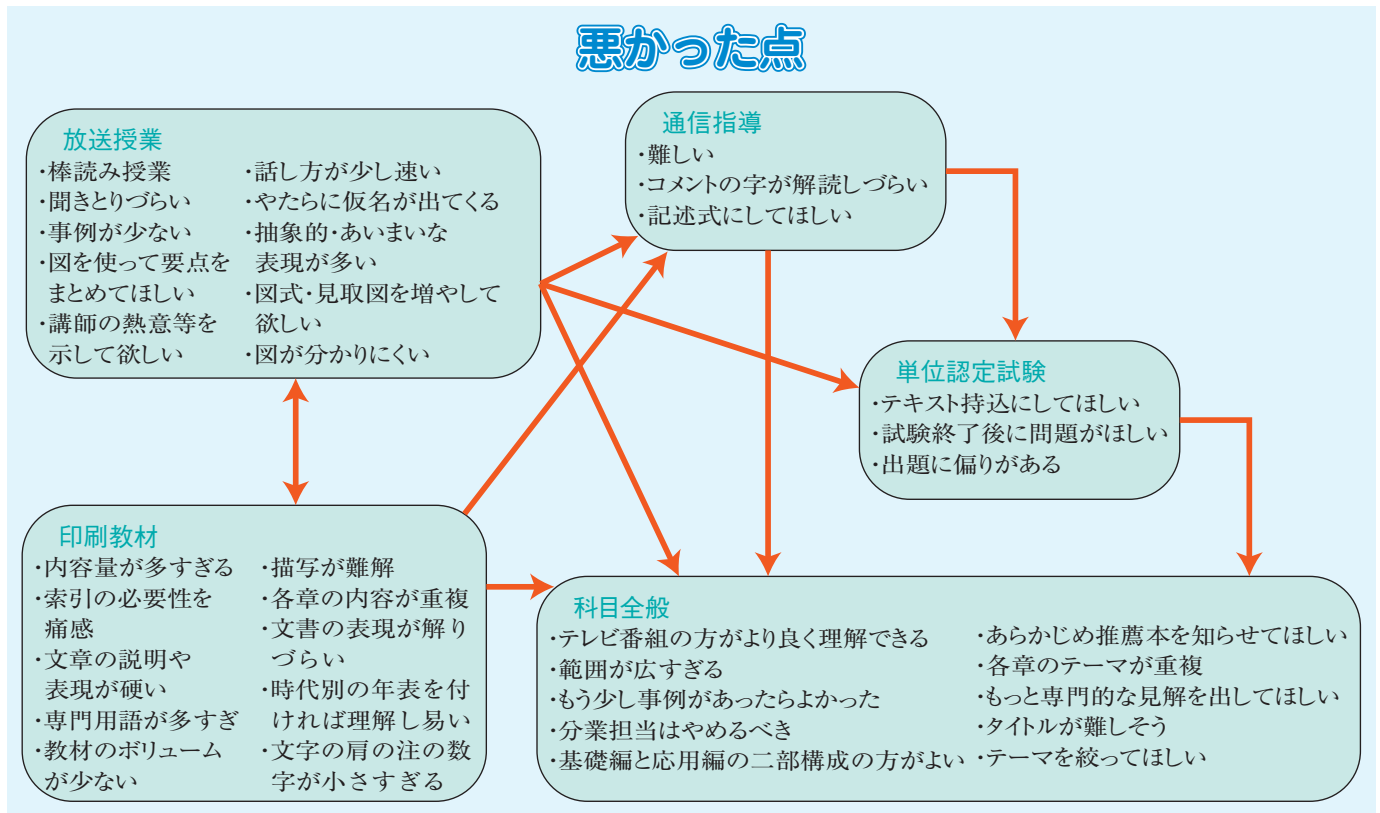
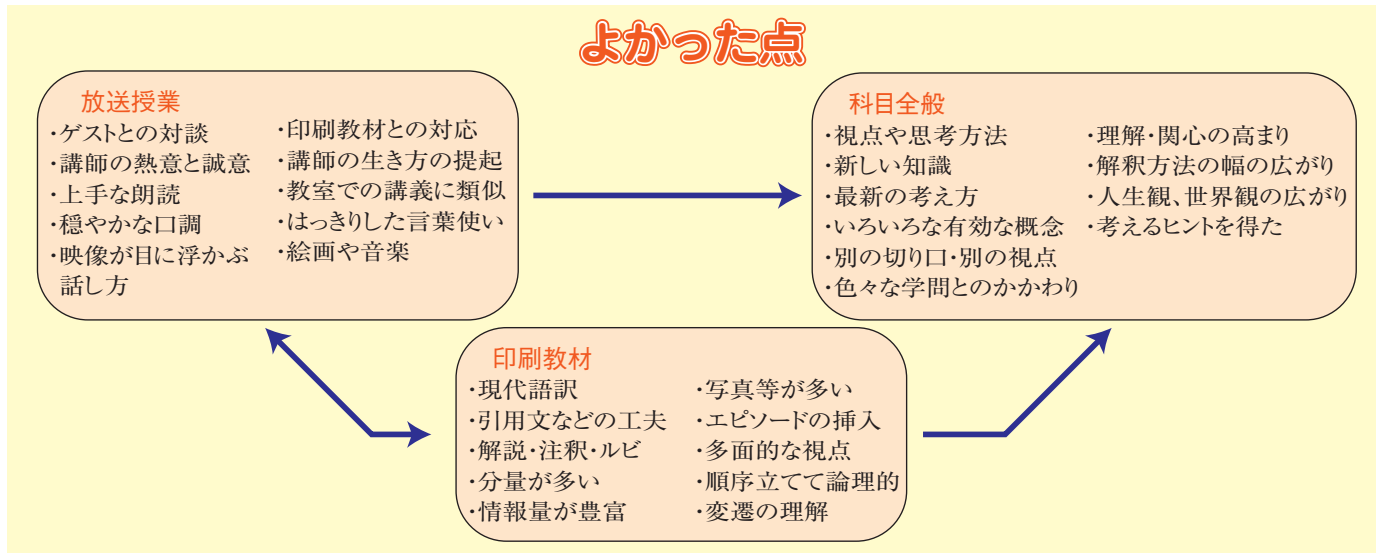
欲しい。下を向き原稿を読んでいる教授の姿がずっと映っている必要はないと思う。

- 学問用語特有の意味が理解しにくい。注釈を付け初心者でも取り組みやすくして欲しい。
- 内容の理解のためには図や動画が必要なのに、なぜラジオの講義なのか理解できない。
- 図や表が欲しい。索引も欲しかった。通信指導の字が解読できず困った。
- インターネット等で学習をフォローしてほしい。また、科目の受講すべき順番を教えて欲しい。
- 通信指導の設問を前半だけでなくテキスト全体から出して欲しい。レポート形式の通信指導の可否は早めに教えて欲しい。
- 試験のあと答案を返して欲しい。手元に返って来てはじめて勉強になると思う。

さて、今回は、その結果を、次のようなチャートに表してみた(ここでは、紙面の関係で、最も自由記述回答の多かった学部の人間の探究専攻のみを示す)。このようなチャートを、6専攻と外国語科目、および5プログラム等の計12枚作成し、それをもとに専攻、プログラム等で話し合っ、今後の科目改訂に積極的に活かしていくことを教員全体で確認しているところである。

図2 自由記述内容チャートの例

人間の探究専攻科目



改善点の提案

- テレビ番組に変更する。
- 各回のテーマを絞り込んで明確にする。
- 印刷教材の文章は平明にする。
- 専門用語をできるだけ少なくする。
- 話し手は滑舌に注意する。
- 単位認定試験では適切な出題をする。

結果の活用

評価結果は、各科目ごとに全26項目の統計値をグラフ化し、また自由記述もすべてコピーして各主任講師に提供している。各主任講

師は、教材作り替えに際して、その結果を参照しつつ改訂作業を進めている。それによって、従来は特段の指針もなく教員の考えだけで行っていた教材作成も、利用者である学生の特性と希望を十分勘

案した上で進めることができるようになった。教員としても非常に役に立つ情報源であることは言を俟たない。学生諸賢には、これからも積極的に授業評価調査へのご協力をお願いしたい。

日経BP記事検索サービスが使えます

トライアルを実施し大変好評でしたので、4月から正式に導入することとなりました。「日経ビジネス」「日経PC」「日経アーキテクチュア」「日経メディカル」など、日経BP社発行41誌の最新号から過去8年分の記事を、大学本部地区・各学習センターからインターネットを通して閲覧、印刷することができます。検索手順など詳しくは、図書館ホームページをご覧ください。各学習センターの端末に備え付けた利用の手引きをご利用ください。

わに 和辻信子さん（京都学習センター所属）に 理事長から感謝状の贈呈

放送大学学園では、本学園に対して顕著な貢献をされた個人や団体に対し、これに感謝するため、このたび表彰制度を創設いたしました。その第1号として、これまでに広報用ポスターやリーフレットなど多くの広報活動に出演協力をいただいている、京都学習センター所属の和辻信子さんへ、去る平成18年12月6日に御手洗理事長より感謝状が贈られました。

当日は、学園本部で表彰式が行われ、御手洗理事長から感謝状を受け取った和辻さんは、「まだ卒業していないのに、このような感謝状をいただいて光栄です。10年かけて卒業するつもりなのでまだ5年ほどありますが、たくさんの科目が用意され、学習環境を整えていただいているこの放送大学で、楽しみながら学んでいきたいと思います」と笑顔でご挨拶されました。



スクールスペシャルパスポート購入券の発行について

本学の学生団体の課外活動支援と学生間の交流機会の拡大に資するため、(株)オリエンタルランドとの提携により、「東京ディズニーランド／東京ディズニーシー・スクールスペシャルパスポート（SSP）」（特別割引チケット）の利用が可能となりました。SSP購入券は、所属学習センターにおいて発行します。

ア 利用者の範囲

学校行事の一環（学習センター又は放送大学学生規則第9条に基づき設置された学生団体が主催する学生研修旅行）として利用する本学の学生及び職員

イ 入場料の割引

SSP購入券を申請した場合の入場料金等は以下のとおりです。

年 齢 区 分	通 常 料 金	特 別 料 金	割 引 率
大人（18歳以上）	5,800円	3,770円	35%
中人（18歳未満）	5,000円	3,250円	35%

※料金については変更する場合があります。

ウ 申請の手続き

申請の手続きについては、所属する学習センターにお問合せください。

情報科学の基礎 ('07)

私たちは、郷里の家族に物を送る場合に、それを電線に結んでおいたりしません。テレビが雨の様子を映し出しているからといって、傘を取り出したりはしません。なぜでしょうか。それは私たちが、電気通信やテレビ放送についての基本的知識を身につけているからです。実は、これと同じような根本的な理解を情報の分野についても身につけておく必要がある時代に、既に入っているのです。そうでないと、今まで慣れていた使用法が突然変わって途方にくれたり、知らないうちに自分や組織、あるいは広範囲の社会に被害を与えてしまったりすることが頻繁に

起きてしまうのです。

この科目では、身近な情報機器であるパーソナルコンピュータの動き方から話を始めて、情報機器を実際に実現しているのは手順を記述するプログラムであること、実際のプログラムの概略、及びその動作能力の源泉である数学的万能性を、平易な例を用いて解説します。さらに、現実的なコンピュータ処理の複雑さと、対応するプログラムの大きさを理解することによって、現代の情報システムの全体像とその限界とを示します。情報社会を生きるにあたって利用しないでは済まないいろいろな情報システムについて、情報科学の

東京大学大学院 教授 川合 慧
(放送大学客員教授)

根本的な原理やシステムの仕組みの概略を知ることによって、批判的な視点をもつことができるようにするのが、この科目を学習する目的なのです。



8 消費者と証券投資 ('07)

2007年は「団塊の世代」が大量に退職期を迎え始める年として注目されています。激動期を駆け抜けてきた団塊の世代自身にとって最大の関心事の一つは、退職後の経済基盤として退職金を含めた金融資産をどう運用すればよいかという問題でしょう。そこでこの科目では、消費者の視点から「証券投資」に注目し、私たちのライフステージに応じた証券投資のあり方について考えてみることにします。

証券投資に注目する理由は、米国の家計資産構成において株式や債券などの証券投資が日本における預貯金の比率とほぼ等しいこと、2000年代以降の低金利政策で預貯金金利が長期にわたって低位

に据え置かれてきたこと、相次ぐ金融市場改革で日本でも消費者にとって証券投資が身近なものになってきたことなどが挙げられます。

この科目では、金融や証券投資に詳しい3人の主任講師と5人の協力講師が、消費者にとっての証券投資について、基礎的な考え方から、最新の制度的情報、投資を決定するための留意点まで詳しく説明します。合わせて、家計部門が保有する1500兆円にのぼる金融資産の運用が、日本経

済全体にどのような意味をもつかについても、考えてみます。

自己責任時代の賢明な消費者にとって、金融商品に関するある程度の知識は不可欠です。あなたのお金を、あなたとあなたの家族のためにどう運用すればよいか。それを決断する前に、是非この科目を履修していただきたいと願っています。(林)

社会と経済 教授 林 敏彦
社会と経済 助教授 坂井 素思
日本証券経済研究所 主任研究員 佐賀 卓雄
(放送大学客員教授)



林 敏彦 教授



坂井 素思 助教授



佐賀 卓雄 助教授

転換期の教師('07)

福岡教育大学 教授 油布 佐和子
(放送大学客員教授)

21世紀の始まりとともに、教育現場には大きな変革の波が押し寄せてきました。教育の担い手である教師も、そのうねりの中に巻き込まれており、日々の仕事はもちろん、教職の資格や要件などが大きく変わろうとしています。放送教材は06年に作成しましたが、教員免許の更新制度や教職大学院の設立など、06年の段階ではその姿が十分に現れていない制度改革も、今後「転換期の教師('07)」の放送期間中に、次々に現実化していくことになるでしょう。現在は、まさに教職の＜転換期＞にあっているのです。

教育には目の前の子どもを育む

という重要な機能がありますが、同時にそれは、教育した子どもを通じて30年50年後の社会を建設するという二重の役割を担っています。本講義では、その重要な担い手である教師・教職が、現代社会のなかでどのような状況に置かれ、どのような問題に直面しているのかを把握した上で、今後どのような方向に向かっていこうとしているのかについて考察します。

「優れた教師とは」とか「教師とはかくあるべき」というような、理想や理念を語るこれまでの教師論とはアプローチの仕方が異なるので戸惑うかもしれませんが、社会の動向と無関係にそれを論じる

のは有効ではないと考えます。本講義では、教師・教職について検討すべき多様な領域を提示しますので、それを題材に議論を深めてることができたらと願っています。



スペイン語入門 I('07)

京都外国語短期大学 助教授
(放送大学客員助教授)
慶應義塾大学 非常勤講師
(放送大学客員助教授)
関西大学 特任外国語講師
(放送大学客員助教授)
慶應義塾大学 非常勤講師
(放送大学客員助教授)
法政大学 助教授
(放送大学客員助教授)
早稲田大学 非常勤講師
(放送大学客員助教授)

立岩 礼子

丸田 千花子

マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス

スペイン語入門 II('07)

丸田 千花子

久野 量一

サンドラ・モラーレス・ムニョス

スペイン語は現在約4億人近くの人々が使用し、国際社会でも存在感のある言語と言ってもよいでしょう。この言語を公用語としている国々は、スペインやラテンアメリカ、そしてアフリカの赤道ギニアなど20カ国以上に及びます。またアメリカ合衆国においてはヒスパニックあるいはラティーノと呼ばれるラテンアメリカ系移民の人口増加により、スペイン語の存在を無視できなくなっています。今やスペイン語は、フラメンコや闘牛の国とイメージされがちなスペインという一つの国だけで話される言葉ではなく、かつてはインカ、マヤ、アステカなどの古代文明が開化し、軽快なラテン音楽が生まれ、サッカーや野球の有名選手を輩出しているアメリカ大陸の国々の言葉として、世界的に親しまれています。

「スペイン語入門 I」及び「ス

ペイン語入門 II」の目標は、受講生が自己紹介をし、日常の話題を通じてスペイン語圏の人たちとコミュニケーションをはかるための力を育むことです。「入門 I」では文法の基礎を学びながらスペイン語の音に慣れ、日常会話の平易な表現を習得します。「入門 II」では様々な時制を学び、応用表現を習得して会話の幅を広げていきます。放送教材では、教員との双方向性を重視し、受講生がスペイン語を発声する場を用意しました。動詞の活用や語彙の発音練習はもちろん、スキットのロールプレイや聞き取り練習なども盛り込まれています。実際に教室で受講している感覚で放送を聴いて、勉強できるように配慮してあります。

ところで、言葉を学ぶということとは必ずしも文法だけを学ぶことではありません。その言葉を母国

語とする人々やその言葉が使用されている社会について理解を深めることも大切なことです。「入門 I・II」では様々な分野からのゲストがスペイン語圏の文化について語るコーナーとスペイン語で歌われる音楽を紹介するコーナーを設けています。きっとスペイン語にとどまらず、スペイン語圏の文化についても様々な発見があるでしょう。

この科目の学習が、受講生にとって新しい世界を開くきっかけとなることを期待しています。

(丸田)



丸田 千花子 助教授

日本の中世 ('07)

地域と交流を中心にしながら日本の中世社会の動きを探る、というのが今回の日本の中世史のテーマです。そのために日本列島の各地に赴いて現地からの報告を多く盛り込むようにつとめました。

中世史を探ってゆくためには、古代社会と比較してはるかに多く、多様な材料があります。古文書や日記、文学作品など様々な文献資料が史資料として残されています。したがってその読解が基本となります。ところが、近世の社会とは違って、どこにもそうした史料があるとは限りません。そのため中世社会の姿を探るためには、各地に出かけて行って考古資

料や景観・伝承などを探り、中世の姿を捉える作業がとても大事になります。それというのも現在にいたる地域の姿がこの時代に形成され始めてきたからです。

そこで新たに平泉・福井・南山城・大和・博多などを訪れ、テレビという媒体を生かして、中世社会の形成のありかたをこの番組では考えてみました。これまでに知らなかったことが実に多くあることがわかったのは大変

人間の探究 教授 五味 文彦
東京大学大学院 助教授 本郷 和人
(放送大学客員助教授)
慶應義塾大学 助教授 中島 圭一
(放送大学客員助教授)

に収穫でしたが、それとともに各地で発掘や調査を行っている研究者の情熱に触れたのも貴重な体験でした。

主任講師三人が、それぞれに個性を生かした番組を作ったつもりです。ご期待ください。(五味)



五味 文彦 教授



本郷 和人 助教授



中島 圭一 助教授

自然と社会を貫く数学 ('07)

現代の生活の中で数学は至る所に活かされているが、これを直接見ることは難しい。例えば、インターネットのセキュリティを確保するシステムは暗号理論により支えられているが、この数学理論があからさまに表に出ているわけではない。

一方、数学は学問として次のような性格を持っている。すなわち、一つ一つのことがらを積み上げていくことで、ある程度の水準まで到達し、その結果としていろいろなものが見渡せるようになる。このようにすれば、数学の有用性も理解できる。言い換えれば、数学は基本的なことから順々に、一步一步登って行くことによって理解が進むという形、つまり縦型の構造をしていることがはっきりして

いるのである。

本科目「自然と社会を貫く数学('07)」では、数学を少し違うやり方で見える。数学を学ぶためには、その縦の構造を無視することはできないけれども、ひとまず高い所からの風景を眺めつつ、山の姿、数学の形、について考えてみよう。そのために、主任講師の岡本に、薩摩順吉青山学院大学教授と桂利行東京大学教授を加えて、3人の担当とし、広い数学を紹介することを目標とした。担当講師による対談や鼎談も含めて、数学の発展の歴史から現代の最先端まで、数学を学ぶ道筋の一つを提供したい。至る所に数学あり、Mathematics almost everywhere、ということ伝えることができれば幸いである。

東京大学大学院 教授 岡本 和夫
(放送大学客員教授)

なお、本講義では、教養科目で学ぶ数学、微分積分学や線型代数学などを一応の前提としている。必要な説明は繰り返しを恐れずに行うが、理解の助けとするために必要ならば、それらの科目の講義、印刷教材等を積極的に参照して頂きたい。



法システム I ('06)

政策経営プログラム 教授 中嶋 士元也
上智大学大学院 教授 町野 朔
(放送大学客員教授)
学習院大学 教授 野村 豊弘
(放送大学客員教授)

この講義及び印刷教材は、国民一般ないしは職業に携わる人々の生命の維持あるいは健康の保全に係わる法思想や法制度あるいは現在において最も解明が要請されている法理論を取り上げ、現代の医療・保健のあり方をめぐる種々の問題を法的側面から研究しようとしたものである。担当者である客員教授の町野朔氏（刑法・生命倫理法）ならびに野村豊弘氏（民法・医事法）は、それぞれの分野においてその人ありと知られた優れた研究者である。そして、中嶋は、雇用法・産業衛生法に関心を持ち続けている。

本書の問題関心と内容を大別すると、次のようになる。まず第1に国民を対象とする一般医療における医師・医療機関と患者の契約

関係をめぐる法律問題ならびに被用者を対象とする産業衛生が提起する法的問題の検討である（医療や職場の安全衛生と法の問題。第5章～第10章）。第2にその前提的問題として生命倫理及び医療道德のあり方と法規範の相互関係が論じられなければならない。現代の先端医療技術ならびに生命工学・生物工学の驚異的な発展は、法思想のあり方にもただならぬ深刻な問題を突きつけているからである（生命倫理と法の問題。第1～第4章）。第3に国民の心身にわたる健康な日常生活の保

全の問題にも法制度・法理論が大いなる関心を示すのは当然である（予防医学・精神医学・医薬品・食品の安全。第11～12章、第14～15章）。そして、これらに付随して、現代における医療情報の保護の問題は法学の不可欠な関心事でなければならない（第13章）。

本書が、読者諸氏の生命・医療・衛生の法的問題を考える契機となれば幸いである。（中嶋）



中嶋 士元也 教授



町野 朔 教授



野村 豊弘 教授

学校システム論 ('07)

関西大学 教授 竹内 洋
(放送大学客員教授)

戦前社会において青春や友情を謳歌できる者は、特権階級的若者にすぎなかった。高等女学校や旧制中学校などの中等教育機関をふくめてもせいぜい20%の若者の世界だった。多くの人は奉公にいくか、家業に精を出さざるをえず、小学校あるいは高等小学校以後の学校は、遠く眩しい世界だった。その意味で戦後の新制中学と新制高校こそ青春を大衆化しティーン・エイジャーを創出した装置だった。1963年には、歌謡曲「高校三年生」が登場し、半年でシングル盤100万枚の大ヒットをする。この年の高校進学率は67%である。しかし、ここあたりを峠として

青春と友情の、そして文明化の装置としての学校の意味と輝きが喪失しはじめる。1970年代から校内暴力やいじめ、不登校問題が続出し、人生の学校化や知の学校化を指弾する脱学校論や反学校論がとなえられるようになる。学校からアウラがなくなり、監視のまなざしがはりめぐらされた全体的制度としての学校、あるいはいじめや暴力が及びこる無秩序な収容所としての学校というイメージがせりだしてくる。

この講義は、生徒や教師などの学校内部への視線と社会や大人という学校外部からの視線を交差させながら、人類が発明し

た学校という人間形成装置が、どのように変貌してきたのか、そして、いまなぜ学校の秩序が揺らぎだしているのかを考える試みである。



京都学習センター

—誰もが来たがる楽しい雰囲気—

JR京都駅前にある当センターは交通至便で近隣府県から学生の流入が多く、加えて連携協力関係にある専門学校からも多くの全科履修生が入学し、活気に溢れています。

この雰囲気は面接授業を充実した内容に工夫してきたことが影響したと考えています。年間60科目のうち約2割がセンター外施設で行う面接授業です。今年度は釧路湿原の近くに位置する京都大学北海道研究林で行い、来年度は鹿児島県桜島に位置する京都大学火山活動研究センターで実施する予定です。これらの授業風景は「京の出来事」としてセンターの廊下掲示板に写真展示していますが、その写真を見て「次回は参加したい。」と言う学生が多数います。

そんな学生の声を聞くと、思わず学生に喜んでもらおうと欲が出て、同一日に面接授業を4講座も計画してしまい、事務室長から「事務職員の担当が組めません。」と叱られました。確かに事務量は激増していますが、誰一人嫌な顔をせず対応してくれるので感謝しています。

客員教員、面接授業担当講師を含め教職員と学生との交流、学生間の交流は盛んで特に学習懇談会、定期講座、研修旅行、各サークル活動が

京都学習センター所長 宮崎 昭

その原動力となっています。そのような中で、24歳と91歳の学生が本学の広報媒体のポスター等の顔として選ばれたのも京都学習センターの誇りです。

私は、朝目覚めるとセンターに行きたくありませんが、事務職員、学生の行動にもそのような気持ちが見て取れます。今では、客員教員の先生までもセンターに来るのが楽しみと話してくださるので、とても嬉しいですし、またやる気が湧いてきます。



富山学習センター

—地元発信の面接授業—

富山学習センターは富山市中心街から西へ約15キロ、射水市黒河の富山県立大学計算機センターの3階に設置されており、太閤山丘陵の樹木に囲まれた静かな環境にあります。現在の所属学生数831人、大小の講義室二室を備えたこじんまりしたセンターです。交通のアクセスは最寄りのJR小杉駅からだんだん上ガりの坂道を徒歩で約25分、タイミングがよければ、バスを利用して県立大学前まで約5分です。

面接授業は年間約30科目を開設しています。そのなかに富山の特色を生かしたものがあり、県外の皆さまの受講を歓迎します。たとえば富山大学和漢医薬学総合研究所の先生方の授業では、研究所附属の民族薬物資料館で実際に生薬を五官で感じる体験実習にめぐり合うことがあります。またすでにお気づきの方もあると思いますが、放送授業「中世日本の物語と絵画（'04）」第8回「『往生要集』と地獄の絵画」では立山信仰の拠点である芦峯寺集落と室堂の地獄谷をめぐる現地ロケを背景に講義が展開されています。

富山学習センター所長 小谷 伸男

テキストに紹介されている図録資料も山麓の立山博物館で入手できます。放送授業「表象としての日本（'04）—西洋人の見た日本文化—」の第4回はラフカディオ・ハーンをとりあげています。授業には言及されていませんが、富山大学中央図書館にはハーンの魂ともいべき生前の蔵書約2,500冊が収蔵されています。富山の面接授業に参加されて、地元の学生さんと交流してみてはいかがでしょうか。





私の研究室で長年研究しているテーマのひとつに、「潜在記憶」がある。例えば、実験の参加者に、「□いど□ろ」という文字列を見せ、□のなかに適切な文字を入れて、ひとつの言葉を作る問題を出す。その場合、ある参加者には、1ヶ月前に「だいどころ」という言葉を見せておき、別のある参加者にはその言葉を見せおかないとすると、見た条件の参加者の方が、

あなたも気づかない能力がある

発達と教育 教授 太田 信夫
教育開発プログラム

見なかった参加者より、正答の可能性が高い。実際の実験では、何十という多くの言葉で、多くの参加者に行い、平均としてこのような結果を得ている。

人は、何十という言葉を示され（記憶をするようにとはいわれないで）、その後1ヶ月もするとほとんどその言葉は思い出せない。しかし、その言葉の一部を示されると、思い出すという意識は無くても、その言葉を再現することができるのである。実は、このような実験は、半年あるいは1年の間をおいた場合でも同じ結果がでるのである。また、言葉の代わりに、写真や絵画や無意味図形を用いて

も、同じ結果が見られる。すなわち、覚えてたつもりもなく、思い出せないことでも、何かの手がかりで再現できる能力を、私たちは持っているのである。

この能力は、メロディの記憶、味やにおいの記憶でも、実験的に証明されており、人間の持つ感覚・知覚レベルでの、いわば大変プリミティブな〈原始的な〉能力であるといわれている。これは、意識的に忘れたと思っていても、経験の痕跡は私たちの体のどこかに残っており、それが本人も気がつかないうちに意識や行動に働きかけているということである。

13



超高齢化社会の日本において「健康」は最も関心の高い課題のひとつであります。2000年に策定された「健康日本21」においても健康に関連して食生活・栄養の重要性が強調され、生活の質"QOL"の向上も意図されています。さらに「食生活指針」も提案されています。心臓病、脳卒中、糖尿病、がんなどの疾病は生活習慣によって発症する

健康を支える食品機能研究

生活と福祉 教授 中谷 延二
総合文化プログラム環境システム科学群

疾病といわれており、とくに食習慣に大いに関わっています。食習慣を改善することにより疾病の発症を減少させると期待されています。

私たちは、食品素材に含まれる有効な機能性成分を探索して、生活習慣病を予防することを目指して研究を続けております。新規な機能成分を発見する期待と喜びがあります。具体的には東南アジアや沖縄で伝統的に食されてきた植物性食材や香辛植物に着目して抗酸化成分や抗菌成分を探索して、生体調節機能を有する成分の化学的解明と機能活性を調べております。

ある大学院生は毎日実験室で肥満を抑制する植物成分の探究に没頭しております。またある種の乳酸菌を用いた発酵乳の栄養機能成分の探索をテーマにしている大学院生もおります。食品の表示の問題や、氾濫する食情報の信憑性を検証する方法の構築に取り組む学生もいます。科学的視点からは勿論、生活者としての視点からの「食と健康」に関わる興味ある研究テーマは沢山あります。国内外の研究者と共同して、食による健康の維持・増進に貢献したいと願っています。

退任あいさつ



放送大学へ赴任してから10年が過ぎた。それ以前の科目制作のお手伝いも含めると、20年近くになる。それでも実際に赴任してみると、印象は強烈であった。身体障害者の方が勉強し、努力して単位認定試験を受けている。一般の大学では学生の目的も年齢もほぼ同質なのに、放送大学では極めて多様である。働きながら学ぶ意欲に燃えた

放送大学はどこへいく

自然の理解 教授 杉本 大一郎
総合文化プログラム環境システム科学群

方々がおられる。

教師の側では、どのような講義を提供すればよいかという難題を抱えることになる。大学院を含めても360科目しかないのに、あらゆる分野を包含している。学生の経験も基礎知識のレベルもまちまちである。かつて「宇宙の終焉」という新書を著したとき、高校生からは「易しい」、物理の大学院生からは「難しい」という批評を受けた。それを一つのモデルとして考えたが、大学教育のレベルでは、それほど単純ではなかった。

そこで私はリテラシー教育を主張することにした。これは平

成21年度からの基礎科目で、一応は結実しつつある。もう一つ、教養教育と各種免許や技能習得が、組織として相補的になることを考えた。文化の高揚と放送大学の経営をどう折り合わせるかという問題である。この点も「連携・資格プログラム」という、教養学部のもう一つの柱として建ちつつある。私自身は今後の発展を見ているだけであるが、それぞれの比重の大小に関わらず、放送大学がどういう方向に行こうとしているのか、世間に明言しておくべきであろう。



放送大学が与えてくれた 出会いの驚きと喜び

産業と技術 教授 香山 壽夫
政策経営プログラム

礼ですが、先生は『都市計画論』の香山先生ではありませんか。私はまちづくり運動に関わっているのです。先生の授業を毎回興味深く聴いています。」と言われて驚きました。その後、タクシーの運転手さんや、すし屋の板前さんまで、様々な人から同じような声をかけられたことが何回あったことでしょうか。大学での授業が、このように広い反響を生むとはこれまでどの大学でも経験したことのない驚きでした。面接授業も、毎回人々が教壇に近い席を奪いあい、授業時間が終わっても質問する人々が廊下に溢れる熱心さに感動し

ました。おしゃべりと無感動が支配する一般の大学の教室と全く違う世界が放送大学にはあるのです。

大学院の学生も、多様な経験と専門を持って全国各地から集ってきました。こうした多様性、そして真剣な問題意識も、これまでの大学では経験したことのないものでした。こうした特色と同時に、様々な困難、不満を感じたことも事実ですが、欠点の内に沈むのではなく、その特色を更に大きく伸ばすことによって、比類ない独自の地位を一層高めていただきたいと思います。願っております。

放送大学における五年間は、それ以前のどの大学でも経験したことのない新鮮なものでした。そこには、それまで予想もできなかった戸惑いも驚きもあり、同時にまた、新しい喜びがありました。

最初の年、私の初めての放送授業がテレビで放映されて半年ほど経ったある日、中央線の電車の向かい側に坐った女性が、はっとしたように立ちあがり、それから私の前に立って、「失



放送大学とご縁ができたのは、1986年のことでした。故・柴田南雄教授と一緒に『民族音楽』を作り、その後は一人で、『民族音楽学』『民族音楽学理論』を担当しました。2001年には、翌年に始まる大学院の『芸術文化政策Ⅰ』を制作しました。そのために、担当の故・水谷雄二郎ディレクター、田村玲子さんとともに、宮崎県椎葉村、ロサ

退任の挨拶

ンゼルス、ストックホルム、ヨーテボリと移動し、制作部門の方々の素晴らしさを実感しました。2002年度に専任になってからは、学部では人間の探究専攻に所属しましたが、大学院では芸術文化政策を担当するため、政策経営プログラムに所属しました。そのため、社会科学や工学の先生方と一緒に仕事することができたのは、まことに幸せでした。また、研究室を8階に与えられたお蔭で、同じ階の数学・物理学・化学の先生方とお話をする機会が多くなり、沢山の刺激をいただけたのも、幸せなことでした。

人間の探究 教授 徳丸 吉彦
政策経営プログラム

2004年からは東京足立学習センター所長を兼任したため、それまで以上に、放送大学のもつ多様な任務と運営の大切さを理解することができました。社会との接点が教員以上に多い事務局の方々の、仕事の大変さを間近で見ることができたのは、有意義な経験でした。

放送大学は、日本の大学としてだけでなく、世界の大学の一つとして、さらに大きな役割を果たす必要があると考えています。皆さまのご健闘をお祈りします。



本学に着任するほぼ一年前に大病で五十日間入院を余儀なくされた。小脳に腫瘍が見つかったという。退院後の半年ぐらひはステッキ、というよりは杖、を手放すことが怖かった。退任の今年度は無事かと思いきや、六月に母親が倒れ、手術は成功したものの、その後の内科的問題が難解で、元気ではあるもの

十年という時間

人間の探究 教授 野山 嘉正
総合文化プログラム文化情報科学群

の今なお闘病中である。病名は〈くも膜下出血〉、因果なことに又しても脳関連である。前任校の最終の一年と似たようななりゆきになったが、本学にとっては二年間の、言うなれば損害である。定年の年はやや公務が軽減されるという伝説的な言い伝えがあるというから、ここいら辺がいいところかとも思うが、それにしてはなかなか大変であったとも振り返る。

本学の特性は構造的に、非常にフリーで、しかも限定的である、という難事にある。それを〈腕力〉とか〈匙加減〉で幾つ

もの急場を凌いでいかねばならぬから、考え込み始めると、話のゆくえがぼんやりとして迷走せざるを得ないのである。客員でお世話になっていた時のどこかの時点で、こういうイメージをいだいていて、それ以後大して変わった自覚はないが、しかし、私の学の方からすると、本学はうってつけと言ってよいくらい、実に楽しかった十年間であった。今後はこの動きをどうやったら充実させられるか、サポートを貸し与えられた各位に謝意を反芻しつつ構想していきたいと思っている。



私は、大学院の新設の時期に合わせて就任した。毎年10名前後の院生の研究指導責任者として、研究指導支援システムの"メーリング連動掲示板"を主に利用して、研究指導に当たってきた。そのため、個々の院生には、面接試験、オリエンテーション、研究報告会Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと論文発表会の計6回しか会う機

楽しい経験をさせてもらいました

生活と福祉 教授 宮下 充正
教育開発プログラム

会がなかった。しかし、不思議なくらい、院生の印象が強く残っている。それぞれが多様な背景をもって、多彩な研究に励んだせいだと思っている。その卒業生が、1年に1回は顔を会わせる機会をもとうと「身体福祉学会」を立ち上げ、研究指導担当教員を含め40名ほどがすでに加盟している。そして、2005年伊豆の修善寺、2006年琵琶湖の堅田で都合のつく人が集い、その後の研究の進捗状況を話し合うことができた。

また別に、生活と福祉専攻の新しい科目を開設するようにと

いわれ、一般には聞きなれない「身体福祉論」を"自活できる能力の保持"という副題をつけて制作した。高齢社会の到来とともにしだいに定着したようで、卒業研究指導を願い出る学生が増えてきた。学生から、4月から10月にかけて数回レポートの提出を求め、その都度赤字を入れて返却するという指導方式を取ってきた。その過程で、単なるレポートから、しだいに研究報告書へと体裁が整えられていくのを見るのは、指導者として大いなる喜びであった。



平成12年から7年間、放送大学でお世話になりました。当時は全国化による活気が漲っていました。その様な状況下で、平成12年10月に現在の当学習センターと香川大学との合築棟が落成し、平成13年には大学院が設置されました。

この間、香川県民（101万人）の0.1%に当たる1000人の学生確

放送大学と現職教員

香川学習センター所長 高尾 将臣

保を目標に掲げて、日本一面積の狭い県下をくまなく、学生募集のステッカーを貼ったレンタカーで、広報活動のために関係諸機関を訪問してきました。特に、平成14年大学院学生受け入れ開始時には、専修免許状取得の特例措置があり、現職教員をターゲットに学校訪問の日々が続きました。訪問先への途中の「讃岐うどんめぐり」は疲れが癒されました。また、平成15年度から教職10年経験者研修が実施され、その研修内容のひとつの「課業機関（校内）における研修」に、県教育委員会のご

理解を頂き、教職10年経験者研修に放送大学の受講が認められるようになりました。これを機会に10年研修者の現職教員が放送大学を大いに活用されることを期待したいものです。

最後に、面接授業、学生相談、研修旅行、懇談会等で多くの学生さんとの出会い、貴重な経験を得させて頂き、深く感謝を申し上げます。そして、理事長、学長をはじめ多くの関係各位の暖かいご支援に対して厚くお礼を申し上げますと共に、放送大学の一層の充実と発展を祈念してご挨拶といたします。

教務のお知らせ

平成19年度第1学期教務スケジュール

学部(教養学部)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	1(日)	28(土)	6(日)	21(土)	22(日)	30(日)
第1学期の学習	放送授業期間	ゆとりの期間	放送授業期間	集中放送授業期間		
授業	21(土)			15(日)	9(木)	19(日)
面接授業(毎週型・土日型)					面接授業(集中型)	
下学～上旬						
通信指導の送付						
11(金)	16(水)	26(土)	1(金)	29(日)	5(日)	
面接授業(毎週型・土日型)の第3次追加登録		面接授業(集中型)の科目登録申請	面接授業(集中型)の授業料納入	単位認定試験		
20(金)	25(水)		中旬	中旬頃		
単位認定試験通知(受験票)の送付						
卒業研究履修申請						
成績通知の送付						
第2学期の学習						
科目登録申請要項の送付						
26(木)	9(木)					
科目登録決定通知の送付						
面接授業(毎週型・土日型)の第1次追加登録						
印刷教材の送付						
授業料納入						
15(金)						
平成19年度第2学期出願(平成19年度第1学期末で学籍切れの学生)						
15(水)						
合格通知書の送付						
授業料納入						
印刷教材の送付						

大学院(文化科学研究科)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	1(日)	28(土)	6(日)	21(土)	22(日)	30(日)
第1学期の学習	放送授業期間	ゆとりの期間	放送授業期間	集中放送授業期間		
授業						
下学～上旬						
通信指導の送付						
8(金)						
通信指導提出						
27(金)	28(土)					
単位認定試験通知(受験票)の送付						
単位認定試験						
第2学期の学習						
科目登録申請要項の送付						
26(木)	9(木)					
科目登録決定通知の送付						
授業料納入						
15(金)						
平成19年度第2学期出願(平成19年度第1学期末で学籍切れの学生)						
15(水)						
合格通知書の送付						
授業料納入						
印刷教材の送付						

平成20年度修士全科生学生募集要項は6月15日(金)から配布を予定しています。

修士全科生入学者選考についての日程等詳細は平成20年度修士全科生学生募集要項を入手し確認してください。

※ なお、8月16日(木)以降8月31日(金)までの間、出願票が届いた場合は受付をいたしますが、その際には、教材・学生証が学期開始の10月11日(月)までに間に合わない場合があることをご了承下さい。

何度でも学べる独習用教材 「初歩のパソコン」

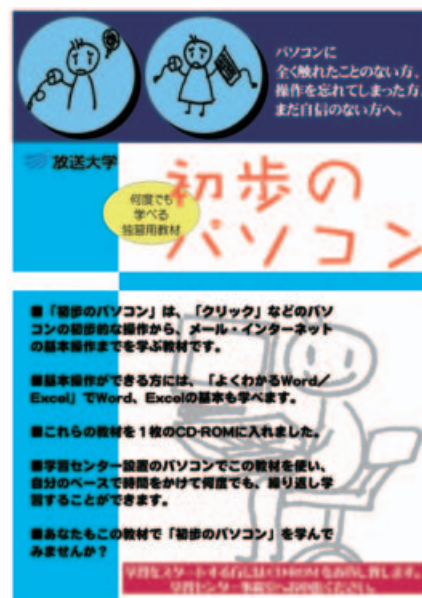
学習センター設置のパソコンを使って学ぶ教材「初歩のパソコン」が、この4月から山形・福井・静岡・奈良・和歌山・鳥取・島根・徳島・佐賀・長崎・熊本・宮崎の各学習センターでも取扱開始となり、全国50ヶ所の学習センター全てでご利用いただけます。

「クリック」などの初歩的なパソコンの動かし方・使い方、日本語の打ち方、インターネット・メールの使い方から、Word/Excelの基本まで、1枚のCD-ROMに収めました。学生の方ならどなたでも、学習センター窓口でCD-

ROM教材をお貸し致します。学習センター設置のパソコンを使って、自分のペースで何度でも学ぶことができます（CD-ROM教材の学習センター外持ち出しはできません）。

学習をスタートしたい方は、各学習センター事務室までお気軽にお申し出ください。この教材でパソコンの基礎を習得し、日々の学習や学生生活にお役立てください。

※ サテライトスペースにはこの教材の配架はありません。ご了承ください。



18

通信指導返信用切手不要のお知らせ

これまで学生の皆様から提出のあった通信指導問題の解答につきましては、その評価・コメントを皆様に返信するために、15円分の切手を提出時にご用意しておりましたが、平成19年度から返信用郵便料を授業料から負担することとなりました。皆様には通信指導の解答提出に必要な郵便料15円分の切手のみご用意いただくこととなりました。

教員の職名の一部変更について

学校教育法が改正されたことに伴い、本学においても現在の「助教授」を平成19年4月から「准教授」と改称することになりました。

なお、平成18年度以前に開設された科目（科目名の末尾が「('06)」までの科目）の印刷教材・放送教材については「助教授」の表記のままとします。

平成19年度放送大学大学院 文化科学研究科（修士全科生）入学者選考結果

修士の学位取得を目指す大学院修士全科生に503人が合格しました。

(1) 合格者の概要

- ①年齢層：〈20歳代〉約1割、〈30歳代〉約3割、〈40歳代〉約3割、〈50歳代〉約2割、〈60歳代以上〉約1割
- ②職業別：〈会社員・銀行員等〉約3割、〈教員〉約2割、〈公務員〉約2割、〈無職〉約1割 ほか
- ③出願資格別：〈大学卒〉約9割（うち放送大学卒は約3割）、〈出願資格事前審査による資格付与〉（4年生大学卒業等の資格を持たない方の出願資格の審査）7名 ほか

(2) 入学者選考結果

プログラム (群)	総合文化		政策経営	教育開発	臨床心理	計
	文化情報科学群	環境システム科学群				
募集人員	140人程度	130人程度	130人程度	60人程度	40人程度	500人
出願者数 (倍率)	154人 (1.2)	154人 (1.2)	181人 (1.3)	135人 (2.1)	782人 (17.8)	1,406人 (2.8)
合格者数	132人	126人	138人	63人	44人	503人

※倍率は出願者数／合格者数

夏季集中科目の学生募集が始まります

夏季集中放送授業期間に「学校図書館司書教諭資格取得に関する科目」、「看護師資格取得に資する科目」を開設します。学生募集等の日程は下記のとおりです。

	学校図書館司書教諭資格取得に資する科目	看護師資格取得に資する科目
学生募集要項配布	平成19年 4月 1日（日）～	平成19年 4月 1日（日）～
出願受付期間	平成19年 5月 1日（火） ～ 5月31日（木）	平成19年 5月 1日（火） ～ 5月31日（木）
放送授業期間	平成19年 7月22日（日） ～ 8月 8日（水）	平成19年 7月22日（日） ～ 8月 8日（水）
通信指導提出期限	平成19年 8月15日（水）	平成19年 8月15日（水）
単位認定試験	平成19年 10月19日（金） （単位認定試験レポート提出期限）	平成19年 9月28日（金）（予定） 平成19年 9月29日（土）（予定） いずれか1日を選択

夏季集中科目生募集要項・科目登録申請要項の入手方法について

夏季集中科目生の学生募集要項・科目登録申請要項は平成19年4月1日（日）（大学本部については、4月2日（月））から配布します。
夏季集中科目の受講を希望する方は、大学本部学生サービス課又は最寄りの学習センターまでご連絡ください。この要項はご連絡いただいた方のみに配布します。在学生が履修を希望される場合にも科目登録申請要項（夏季集中型専用）を入手して、必要な手続きをお願いします。

住所変更届の提出について

放送大学から発送しております、科目登録関係書類、単位認定試験関係書類及び印刷教材等が転居先不明、受取人不在等で返送される事が非常に多くなっています。

科目登録関係書類、単位認定試験関係書類及び印刷教材等については、学習に支障がないように迅速な発送を心がけておりますが、郵便という通信制大学の「命綱」がうまく機能しないことにより、教材が学期開始までに届かない、科目登録ができない、単位認定試験が受験できない場合がありますので次のことを行っていただくをお願いします。

1) 現住所が変更になった場合は、「学生生活の葉」巻末に綴り込まれている「住所変更届」を所定の提出先へご提出ください。提出先は、教養学部在学の方は所属学習センター、大学院在学の方は大学本部となります。

また、併せて最寄の郵便局にも転居のお届けをお願いいたします。

2) 各種送付物が放送大学から送付される時期を「学生生活の葉」にて確認し、郵便受けをこまめに確認いただきますようお願いいたします。科目登録申請要項や印刷教材は定形外のため、郵便受けに入らずご不在連絡票が投函されている場合もありますので、ご注意ください。

平成19年度第1学期面接授業（毎週型・土日型）科目の追加登録

4月から始まる第1学期面接授業（毎週型・土日型）について、空席がある科目は追加登録をすることができます。登録機会は3回、日程等は以下をご確認ください。

空席状況（追加登録の対象となる科目）は、空席発表日以降、各学習センターの掲示・キャンパスネットワークホームページ（<https://www.campus.u-air.ac.jp/u-air/>）でお知らせします。受講したい科目をご確認の上、登録受付期間内に、当該科目を開講する学習センター・サテライトスペースの窓口にて、学生証、授業料を持参のうえお越しください。（なお、一部の学習センター等では郵送による申請を受け付けます。「面接授業時間割表」等で郵送の取扱有無を確認のうえ、郵送申請の前に各学習センター等にお問い合わせください。）

	空席発表日	登録受付期間	4月に新規入学・継続入学された方の申込み
第1次追加登録	3月10日（土）	3月17日（土） ～3月23日（金）	×
第2次追加登録	4月12日（木）	4月20日（金） ～4月25日（水）	○
第3次追加登録	5月1日（火）	5月11日（金） ～5月16日（水）	○

編集後記

On Airの編集を担当してから3年を経過した。これは私が担当する最後の号になる。「なるべく学生の声を」と心がけたつもりである。しかし形式的な連絡事項も沢山あり、従来の紙面構成から抜け出せなかったのは、申し訳なく思っている。

本紙は10万部の印刷物だから、当たり障りのない紙面になり勝ちという面もある。その反省を込めて、本号では、学習の仕方に関して私が重要だと思う本音を述べさせていただいた。その内容は、多くの先生の考えと異なるという指摘を、既にもらっている。しかし学習は他人の考えをまねるより、それを批判的に踏み台にして自分の考えを形成することである。そういう考えもあると思っていただければ、望外の幸せである。

（杉本大一郎、専門委員長）

大学通信専門委員会

（平成18年度）

委員長	教授	杉本大一郎
副委員長	〃	滝口俊子
委員	〃	中谷延二
〃	〃	岡部洋一
〃	助教授	坂井素思
〃	〃	杉浦克己
〃	〃	大橋理枝
〃	〃	隈部正博

（編集事務担当）

教務部学生サービス課）

ご意見やご感想をお聞かせください。
editor@u-air.ac.jp

平成20年度履修者用 卒業研究の申請について ～希望者は申請の準備を～

【新規履修希望者の申請時期】

申請期間 平成19年8月上旬

提出先 本部修学支援課卒業判定係

履修要件及び申請方法等については、平成19年6月中旬に各学習センター及び各サテライトスペースの窓口で配布予定の「卒業研究履修の手引き」（平成20年度履修者用）及び別冊（卒業研究申請書等）を各自で入手して確認してください。

また、卒業研究履修に関するガイダンスビデオ・DVDを各学習センター及び各サテライトスペースに配架しましたので活用してください。

（主な内容）

卒業研究の意義、テーマの選び方、卒業研究報告書の作成手順、口頭試問、手続き等



放送大学

<http://www.u-air.ac.jp/>

ISSN 1343-3369

R100